

第6回号

鳥取県議会議員

鳥羽 喜一

とば きいち —活動報告書—

倉吉の未来のために



鳥取県議会 議会録画



きいちブログ

ブログ更新中!
Instagram
Facebook
X (旧Twitter)も
更新中!



倉吉が変われば
鳥取が変わる



常任委員会として、農林水産商工常任委員会に所属し、副委員長を務めることになりました。

農林水産商工常任委員会では、倉吉市の基幹産業である農林の振興や昨今の物価高騰を受けた事業者への支援金の策定や企業誘致等を管轄しております。また、議会だより作成のための広報委員会にも所属しており、議会での活動を倉吉の皆様にはしっかりとお伝えできるよう取り組んで参ります。



県議会9月定例会

●プロフィール●

愛児園、倉吉幼稚園、成徳小、鳥大附属中、倉吉東高(硬式野球部所属)、早稲田大商学部、東京海上、リクルート、慶應大学院 MBA

連絡先

TEL090-4149-6927

〒682-0886 倉吉市大正町1078-3

kiichi.toba@gmail.com

9月定例会 一般質問

●人口減少社会における県中部1市4町の協力的体制について

【質問】

今後人口減少が進んでいく中で、県中部は同じ生活圏・経済圏にも関わらず、各基礎自治体が独立にその機能を重複しながら行政活動を行っており、より広域での合併がなされた東西部と比較すると非効率な状態が続いている。広域連合組織(中部ふるさと広域連合)を強化させることで、下水道の広域化など、人口減少社会に対応した筋肉質な組織を構築することは出来ないか。

【答弁(知事)】

うまくいけば、下水道の広域化は来年度には具体的な検討に入っていくことになる。地方自治として、県は市町村の後見役という立場ではあるが、この問題意識を受けて協議の促進を図っていく。

●戦略的な大型の企業誘致について

【質問】

既存の企業誘致で行うような補助金のラインナップの提案というものを大きく超えた、鳥取県の外部環境、内部環境、そして、将来の鳥取県の未来図に照らし合わせながら、誘致企業をターゲットングし、JETROや経産省、外務省あるいは世界各国に根を生やす総合商社といった利害関係者を巻き込みながら、提案先の課題に極力寄り添った形での工場団地の整備や補助金の制度設計の再構築も視野に入れながらの、オーダーメイドでの戦略的企業誘致を行うことは出来ないか。

【答弁(知事)】

モリタ製作所やグッドスマイルカンパニー等、取組の成果が出ている例もあるが、今日の御質問を我々もしっかり受け止めて、視野も広く戦略的な立地を進めてまいりたい。

●県立美術館について

令和7年開館予定の鳥取県立美術館は、従来の役割である文化財行政という立ち位置だけでなく、観光などの交流人口拡大に寄与する施設として期待されている。既存の教育委員会内に美術館整備局を配置するのではなく、知事部局の観光戦略を指揮する部署に配置するべきであると考えているが、如何か。

【答弁(教育長)】

県立美術館は、芸術振興が大きな本命の目的であるが、将来的にはこの鳥取県の言わば中核となる観光振興・地域振興の拠点になっていく施設であり、知事部局との連携は必要不可欠である。単なる文化芸術の視点だけではない形で、この県立美術館が大きな存在価値、意義を示せるように取り組んでまいりたい。

【答弁(知事)】

タブーを恐れずに検討をしていく時期に入った。新年度に向けてどういう組織の在り方がいいのか、真剣に検討させていただきたい。

その他の活動

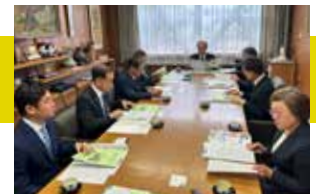
【関金廃線跡のライトアップ】

所属している倉吉青年会議所にて、関金廃線跡のライトアップイベントを企画・運営致しました。予定していた330枠を上回る予約を頂き、増枠分を含めて400枠全て完売となり、大変好評を頂きました。人口減少に伴って、交流人口拡大のためには倉吉の潜在能力を最大限に発揮させる必要があります。今後も、議員活動のみならず、地域活動においても、地域の魅力の再発見と磨き上げに励んで参ります。



【鳥取県中部地区の学校へのヒアリング】

県中部の高校の生徒数が減少している状況を踏まえ、中部選出の議員と共に、県立高校5校と私立高校1校、中学校5校を訪問し、魅力化についての県・市町との教育委員会との連携や中学校の進路指導の状況等についてヒアリングを行いました。現場における課題を踏まえ、議会に活かして参ります。



倉吉東高校訪問の様子